



第47回昭和会展東京海上日動賞・彫刻賞受賞作品《月光》の前で、右からブリヴェ企業再生グループ社長・松村謙三、彫刻家・峯田義郎、受賞作家の田原迫華、日動画廊代表・長谷川徳七の各氏

会場協力・Appia alta  
撮影・船寄剛

第47回昭和会展受賞者を囲む——②

人のかたちと向き合うと、  
世界がすこく迫ってくる

【東京海上日動賞・彫刻賞】

田原迫華

【ホスト】

松村謙三（ブリヴェ企業再生グループ代表取締役社長・大阪大学 知的財産センター招聘教授）

峯田義郎（彫刻家・東北芸術工科大学教授）

長谷川徳七（日動画廊代表・昭和会事務局長）

【東京海上日動賞・彫刻賞】

田原迫華

「人のかたち」をつくるのは、深く「識る」ためなんです。

「つくっていると、

第三の目が開くんです（笑）」

才能豊かな若手作家を輩出し続けて約半世紀、初期受賞者の多くがいまや大家へと成長しそ、「巨匠への第一歩」と謳うにふさわしい実績と存在感を放つコンクール・昭和会展。

その最新世代の魅力を伝える本座談会、今回のゲストは今年開催された第47回展の「東京海上日動賞」と「彫刻賞」を受賞した田原迫華さん。このダブル受賞は昭和会展の歴史でも初めてのこと。観る人を惹きつけずにおかない造形力、その原点とは？



たはらさこ・はな  
1979年鹿児島県生まれ。2002年鹿児島大学教育学部卒業、日展入選（以降毎年）。05年白日展準会員奨励賞、会員推挙。08年白日展長島美術館長賞、鹿児島県美術展県美展賞。09年崇城大学大学院芸術研究科博士課程満期退学。現在、白日会会員、鹿児島県美術協会会員

田原迫 本当に光栄です。もったいないくらい……。

松村 今回、最初の投票（昭和会展の審査は審査員による数度の投票で行なわれる）で「昭和会賞」の（奥谷）太一さん、「松村謙三賞」の原田さん、そして、田原迫さんに投票しました。自分が票を入れた作家全員が賞を獲ってくれたことは嬉しい。その中でも強い印象があった田原迫さんの作品が東京海上日動賞を獲ったことは素晴らしい。

田原迫さんの彫刻は作家の「気」が伝わって



縁 1997年 25×30×高さ45cm  
作家が高校一年生の時に、「彫刻」として初めて制作した作品

くる作品です。素晴らしく良かった。  
**田原迫** ありがとうございます。ほんとうに嬉しいです。まだ作品で食べていけているわけではないので彫刻家というには未熟ですし、また、私が大事にしたいと思っている「粘土で人のかたちをつくる」ということが、どの程度評価されているのかもわからない部分もあって……。ですからこうして賞をいただいたことで、そういったいろいろなことを応援していただけたような気がして。感激しています！

——**峯田**先生は昭和会展の審査員である以前に白日会展での大先輩でもあるわけですが、彼女の作品の魅力をどのようにお感じになられていますか？  
**峯田** そうですねえ……。若い人の作品はおしなべて新鮮で、気になるものなんです。中でも彼女の作品は、先ほど本人も言っていました、「人のかたちをつくる」ということを仕事にし

たい、という熱意と、そもそも人間が好きだということ、これが作品にとっても表れている。それがなによりも良いですね。

それともうひとつ、良い意味でオーソドックスで、造形としての基本をきちんと考えている。最近ほどちらかいと言うと、世の中の流行りや話題のものに気を取られてしまう若い人が多いように思うんです。でも、作家として生きるには、彫刻芸術にとつて最も必要なもの、最低何が必要なのだろうか、といった問いがないと、表面的なポーズや描写に終始してしまい、制作は決して長続きしないものです。その点で、ここまですべて基本をきっちり意識している彼女は、今後長く制作を続けていく上で素晴らしい素地を持っていると思っています。

**田原迫** ありがとうございます。そうおっしゃっていただけると、本当に心強いです。  
**松村** 素朴な質問ですが、そもそもなぜ彫刻をやりようと思っただけですか？

**田原迫** 中学校が進学校だったんですが、そこで勉強についていけなくなつて。それでのらりくらり、勉強せずに生きていくにはどうしたら良いか、と、仙人のように生きていくにはどうしたら良いか、と考へて。

**松村** 中学でそんなこと考へてたんですか(笑)？

## 「人のかたちをつくる」熱意と、人間が好きというところ。それが作品によく表れている。——**峯田義郎**



みねた・よしろう  
彫刻家。現在、白日会常任委員、東北芸術工科大学教授。1937年山形県生まれ。74、75年日展特選、87年白日展内閣総理大臣賞ほか。73年第9回昭和会展での林武賞受賞も

ですが(笑)。  
世界がものすごく興行きを持って私に迫ってくる感じというか、それがとても新鮮で、嬉しくて。彫刻って、世界を変えるんだ、と。そう思えたんです。

**峯田** その感覚の芽生え方は素晴らしいね。——彫刻を制作する、根源的な喜びみたいなものがあるんですね。

## 脳の中でかたちを触る その楽しさ、気持ちよさ

**松村** なるほど、そういう原体験があなたの作品制作の源なんですね。



Message (部分) 2011年 50×80×高さ160cm  
「友達のいろんなところを間近でまじまじと見せてもらって」制作された作品のひとつ。人物の顔を構成する複雑な、そしてなまめかしく繊細な形状の作品化に細心の注意が払われている



まつむら・けんぞう  
プリヴェ企業再生グループ株式会社代表取締役社長。他に大阪大学 法科大学院招聘教授、大阪大学 知的財産センター招聘教授、経済同友会金融市場委員会委員も。来春、松村謙三美術館をオープン予定

あなたには、際立ったセンスがある。ぜひ私の彫刻をつくってもらいたい。

——**松村謙三**

**田原迫** はい、フフフ。そういうことに思いをめぐらすのにいちばんいい場所が美術室で、その当時は、美術の先生は難しいことをしていないように思えて(苦笑)。「よし、美術の先生を目標そう」と思って、美術科の高校に進んだんです。失礼な話ですよ(笑)。

一同(笑)  
**田原迫** ところが今度は、デッサンがいちばん下手なことがわかって、それで絵はダメだ、と。でも粘土でかたちをつくるのならなんとか頑張れるかも、と思つて。それが今に至るきっかけです。

——案外、後ろ向きなきっかけだったんですね(笑)。

**田原迫** でもいざ始めてみると、人の体をじっくりと観ながらかたちをつくるというのが、われながらすごく楽しくて。友達のいろんなところを間近でまじまじと見せてもらつて。あ、耳のかたちってこんなに複雑なんだ、とか頬や顎のかたちってこんなに滑らかで魅力的なんだ、とか思いながらつくっているうちに……。第三の目が開いたような、という、なんだか大げさ

**田原迫** 私がつくろうとする「その人のかたち」は、その人に直接石膏をかけて型取りしても再現できないものです。その人の動き、考へ方、発する言葉……。そういうものすべてを含んだ「その人らしいかたち」——より正確に言えば、「私を感じ取った、その人のかたち」をつくること、が、「人のかたちをつくる」という事なのだと思つています。

**松村** 田原迫さんの制作の考へ方は、従来聞いていた彫刻の制作スタイルとは違っていますね。かなり、モデル、モチーフに自分が入り込んで内側から作品をつくり上げていくんですね。

**田原迫** はい、モデルさんがいて、粘土に「その人のかたち」を写すことを通して、私自身を見つめるというか……。世界がすごくよく見えてくるというか、私のなかに世界が構築されるというか……。

モデルさんのかたち、ひいては世界のかたちを読み取ることができたら……。世界全体を手に入れたような気持ちになれるような、そんな気がしています。ただ見つめるよりも深く「識る」ことができるようになる、と言つたら良いでしょうか。

人が人のかたちをつくりたいと思つ、その理由は、何故だか私にもわからないのですが……。ひとことという、「世界を識る」ためだと思つています。

**松村** 田原迫さんの作品へのアプローチ、感覚は独自のものがありますね。あなたには、際立ったセンスがある。ぜひ私の彫刻を、つくつても



はせがわ・とくしち  
日動画廊代表取締役社長。  
1939年東京都生まれ。64年  
住友銀行東京支店勤務を経て  
日動画廊入社。98年コマンドー  
ル芸術文化勲章をフランス政府  
より受章

## 数々の彫刻を奨励してきた昭和会展の歴史でも、 ダブル受賞は初めてなんですよ。——長谷川徳七



幼少の篤姫（於一）像 2012年 45×30×高さ130cm  
篤姫は今和泉島津家の島津忠剛の長女として幼少期を現  
在の指宿市で過ごしたと言われる。この像は、同市内の  
桜島をのぞむ浜辺に近日設置される予定となっている

らいたい。テニスには自信があつて、現役のプ  
ロテニスプレーヤーと互角に打ち合っています。  
だから、けっこう鍛えているんですよ。ちよつ  
と腕まわり触ってみてくださいよ。我ながら、  
五十過ぎのわりにはなかなかですよ（笑）。

**田原迫** え、そんなお年には見えませんよ！で  
は失礼して……わ、本当に厚い。肩のかたち、  
いいですね。鎖骨のまわりの凹みがしっかりと  
……。厚みのあるしっかりした像ができそうで  
す。

**松村** ぜひつくってもらおう。自分の今の鍛え  
ている肉体をモチーフに、あなたの腕とセンス  
で作品として残したい。

**峯田** ガツシリしていらつしやるから、粘土の  
量が倍くらいかかりそうだねえ（笑）。

**松村** 素晴らしい才能と将来性豊かな作家につ  
くってもらえるのは、とても嬉しい。

**田原迫** ありがとうございます。私ほとにかく  
「見て」つくりますので、覚悟してくださいま  
しね。制作はやはり真剣勝負ですから。  
でも存分につくれるって、楽しみですよ！つく  
るところをご覧いただけるのも嬉しい。つくつ  
ている時のおもしろさは、なかなか言葉になら  
ないですから。この間も祖父の米寿祝いの席で  
レリーフをつくりながら、こうやって陰影つけ  
てこうすると似るんだよ、とか説明して（笑）。

**長谷川** ご出身は九州でしたね、指宿温泉<sup>いさご</sup>。

**田原迫** はい。実家は旅館なんです。

**長谷川** 今、地元の方の依頼で篤姫を制作して  
いるんですよ。

**松村** 一度行ってみたいですね。

**田原迫** 篤姫の実家が指宿ということで、子ど  
もの頃の篤姫像を、という依頼なんです。

**峯田** 難しそうですが、面白そうですね。

**長谷川** なかなか可愛らしい篤姫ができてきて  
いるね。

**田原迫** はい、フフフ。

**松村** 出来上がったら、作品を観に行つた後に、  
温泉に泊まりに行きます（笑）。

来年の春に、自分の美術館をオープンさせま  
す（※松村氏は6月付けで清里の北澤美術館を  
買い取つてオーナーに。同館は改築後、松村謙  
三美術館としてリニューアルオープンする予  
定）、彫刻の作品は来館者が直接触れる展示形  
式にしたいと考えています。

**田原迫** 鑑賞される方が、観るだけでなく触感  
も通じて作品と対話していただけるのが彫刻の  
良さだと、私も考えています。

**松村** 依頼した作品を、自分の美術館で買い上  
げます。あなたの作品の素晴らしさと才能を理  
解してくれる人が増えてくれるなら、私も嬉し  
い限りです。将来性のある作家を見出してコレ  
クションすることは、誇りでもあります。

**田原迫** 私も、自分の作品をきちんと認めてい  
ただけことは本当に励みになります！これ  
からもよろしく願いました。